

ふるさと 故郷新聞

R.4 8月7日

有信 舞

茶屋町誕生

昔は海であった茶屋町。
宝永年間(一七〇四)着工
千拓が行われた。
宝永四年(一七〇七)完成
四年を費やした。北半分を
早島領沖新田村、南半分を
帯江領沖新田村と名付けた。
一般的には早沖・帯沖と言
うが、正式の名はどちらも
沖新田村である。
これより前
一六八三、宮崎割が開墾
一六九〇、赤新田が開墾
後約百年を経て、
一八二四、鶴崎ができた。
早沖、帯沖、宮崎割、赤新
田、鶴崎これら五つの村は
もとは別村で領主も違った
が、維新後次々と合併し、
今では一つの町になった。

倉敷市との合併

茶屋町が倉敷市と合併したの
は昭和四十七年五月一日のこ
とである。合併は茶屋町にと
って非常に大きな歴史的変革
であり、それはドラマのよう
な大きなうねりの中で果たさ
れていったといえる。

合併への経緯
昭和四十四年、大山茂樹市長
と姫井三亀男町長が合併問題
で協議。このころ町長の意向
は合併に傾いていた。
やがて茶屋町は合併について
調査・研究をしたり、現地で調
査をしたり、また協議も幾度
にわたって行われた。協議で
は毎回賛否両論が伯仲してい

た。その中で賛成派の人々が
合併のメリットとして次の三
点を強調していた。
○小、中学校の改築の推進
○道路整備推進十年計画
○倉敷市の東玄関としての地域
開発

この三点、倉敷市と合併した
茶屋町でしつかりと実現され
ていると感ずるが、みなさん
はどうだろうか。

災害史

この茶屋町で最も回数が多く、
代表的な災害は、干ばつとで
ある。干ばつとは雨が降らないなど
の理由で土壌が乾きき、
域住民に深刻な飢饉をもたらす地
す災害である。
干ばつは一七二五、一七三九
までの約二百年の間に十六回
起きていた。一回の干ばつの
被害は約七十日ほど続き、
田は干ばつによりひび割れて
しまう。(左写真)



干ばつでひび割れた田

次に多い災害は、洪水であ
る。洪水は一七〇七、一七五
四の間に十一回起こっている。
その間は干拓が終わり土地が完
成した。一七〇七年に起こった
のは、干拓が完了して、
水がたまりやすくなり、
水が起る。少しの雨で洪水が起
る。対策をしておく必要がある
だろう。

現勢

増		平成元年		令和四年	
男	一〇、三九六	男	一〇、三九六	男	一〇、三九六
女	五、四八二	女	五、四八二	女	五、四八二
男	一六、八〇五	男	一六、八〇五	男	一六、八〇五
女	八、四九一	女	八、四九一	女	八、四九一

このように茶屋町の人口は
約三十五年間で大幅に増え
ている。しかしそれにとま
ない増えるのがごみの処理
である。市に協力し、
分別や不法投棄などの困
問題を助ける。環境衛生協
議会が出来る。また、川
水、のよ、これや地球温暖化な
ど、大きな問題もたくさん
ある。
茶屋町には良くなっている
点もあるが改善点もあると
いうことが分かる。

編集後記

今回、地元茶屋町の事を調
べた。発展していると思
った点はたくさんありまし
た。しかし「現勢」でも述べた
通り、まだまだ改善点はあ
ると思います。大切な地元
のために、ごみ問題に限らず
地域に貢献したいです。

参考文献
「茶屋町史」
「茶屋町史」
「茶屋町史」